

第9回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成 18 年 1 月 30 日 (月) 午後 6 時 30 分
場 所 中央図書館 4 階会議室
出席委員 毛利和弘部会長 赤星昌子委員 池田泰委員 石田和以委員 山本輝子委員
村田吉祥寺図書館長 加藤サービス担当係長
事務局出席職員 河中館長 森川西部図書館長 春日図書担当係長
鹿島主事 船崎専門委員

議題及び内容

○ 主な協議内容

(1) 議題

武蔵野市立図書館の選書について

その他

図書館事務局より「選書部会報告 (概要)」の素案が提示され、内容および表現の確認・検討が行われた。なお、主な意見等は以下のとおり。

- ・ 以前に協議されたように、郷土資料について、展示会等のイベントを行うことは確かに必要であるが、職員の知見の向上という面について言えば、郷土資料を積極的に購入してゆくことが、より効果的。選書に際しては、職員も自らレベルアップを図らざるを得ない。その点からも「武蔵野文庫」については、すでに完結したものとしてではなく、今後も積極的に資料が追加されてゆくような現在進行形のコレクションとして扱われることが望ましい。
- ・ 貴重な郷土資料については専用の空調の完備や、虫害への対策も必要であるということを、あらためて確認しておきたい。
- ・ 視聴覚資料の購入基準について、既存のレンタル店には置かれていないような、教養的な資料を中心とすべきだということは、実際の利用数から見たバランスとは完全に一致しないかもしれないが、図書館としての役割を考えると、やはり提言しておく意義があるだろう。
- ・ 第 8 回の協議にあった、各館の個性化を図るべきだという提言は報告書に載せる必要があるのではないか。
- ・ 不明本の対策については、直接的には選書部会の議論対象ではないかもしれないが、既存の資料が紛失すれば、当然選書にも大きな影響が生じるのであって、特記事項として、選書部会報告書でも協議内容をまとめておくことが必要だろう。
- ・ 報告書に、各自治体の図書館に関する一般統計のようなものを乗せる必要はない。それぞれの自治体の規模・予算等が全く異なっている以上、単純な数値比較には、さほど意味が認められない。何らかの明確なビジョンがあり、その達成度を測るということであれば別だが、そうでない以上、不用意な統計を載せることは、選書部会の報告書としては避けるべきであろう。

次回 平成 18 年 3 月 6 日 (月) 午後 6 時 30 分から